

# 第1部 心理相談センター長講演

## 大学における心理相談センターの役割

### — 江戸川大学心理相談センター設立の意義を考える —

室城 隆之

江戸川大学

Role of psychological counseling center in university

Takayuki MUROKI

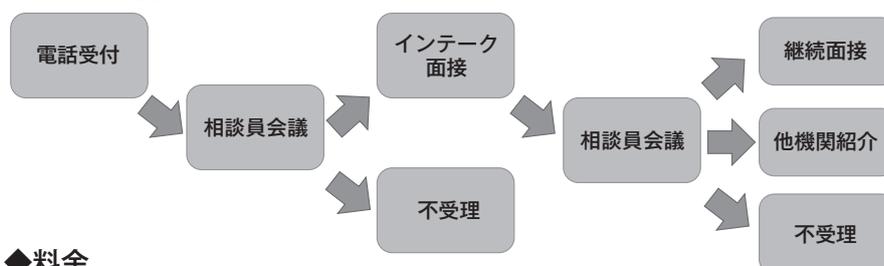
#### 1 はじめに

江戸川大学心理相談センター(以下、心理相談センター)は、2018年10月2日、地域に開かれた心理相談センターとして、江戸川大学駒木キャンパス構内に開設された。毎週2回、火曜日および金曜日の午前10時から午後6時まで開室しており(電話受付は水曜日も可)、スタッフは江戸川大学社会学部人間心理学の専任教員の相談員5名と非常勤カウンセラー1名(講演時。現在は2名)、事務員1名である。年齢や性別に関係なく、幅広い方々の悩みや困りごとに対応している。

心理相談センターのシステムは、図1のとおりである。相談の受付は電話で行っており、受付は原則として事務員が行っている。電話でカウンセリングの申し込みがあると、心理相談センターのスタッフ全員によって週1回行われている「相談員会議」で、インテーク面接を実施するか否かを判断する。この段階で明らか

に当心理相談センターの対象ではないと判断されれば、クライアントに電話でその旨を連絡し、不受理とする。インテーク面接は、専任教員の相談員が行い、その結果は「相談員会議」で報告される。そしてその場で、当心理相談センターでカウンセリング(継続面接)を実施するか、他機関を紹介するか、不受理とするかを決め、その結果をクライアントに伝える。その際、当心理相談センターでカウンセリング(継続面接)を実施する場合には、担当カウンセラーを決め、予約を入れて、カウンセリングを開始する。なお、インテーク面接(初回面接)は90分で3,000円、カウンセリング(継続面接)は原則として1回50分で2,000円からとし、相談の形態や内容によって変更する場合もある。医療機関ではないため、医療・介護保険は適用されない。また、クライアントに主治医がいる場合には、主治医の許可・承諾を得ていただくことになっている。なお、当然ながらクライアントに関する情報の守秘義務は守られるが、当心理相談センターは大学の研究機関でもあるた

#### ◆相談の流れ



#### ◆料金

初回面接(90分)3000円

継続面接(50分)2000円～(相談の形態や内容によって異なる)

\*医療機関ではないため、医療・介護保険は適用されない

図1 心理相談センターのシステム

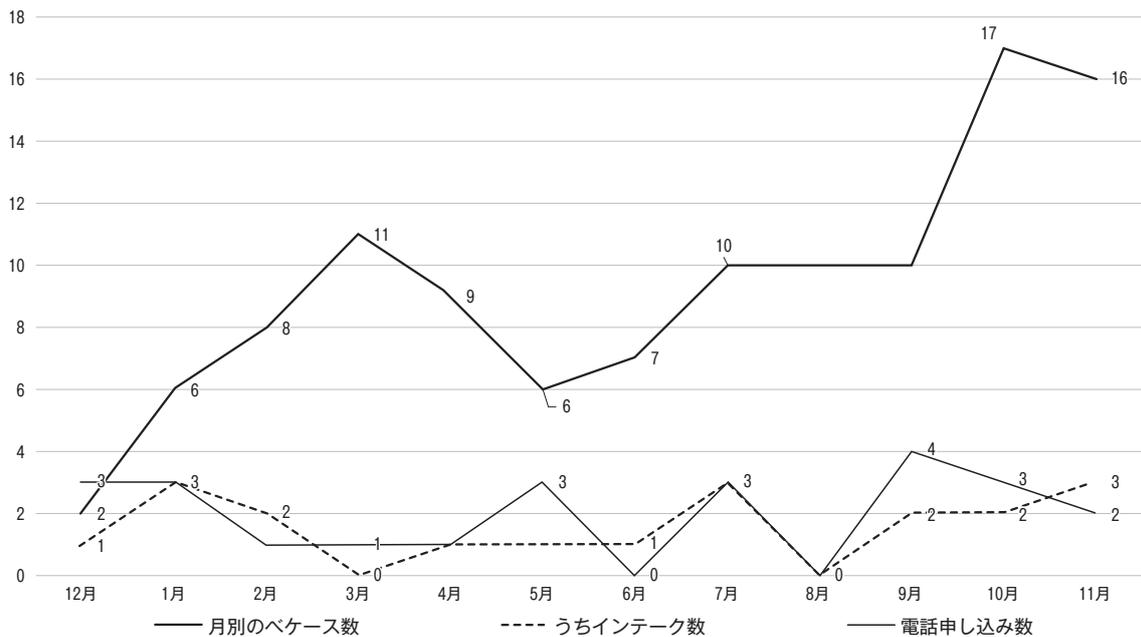


図2 江戸川大学心理相談センター開設後からの月別新規ケース数と来所者延べ人数

めに、得られた情報を個人情報秘した形で研究に用いることがあることについては、事前にクライアントに同意を得るようにしている。

当心理相談センターの開設後からの月別新規ケース数と来所者延べ人数は、図2のとおりである。当心理相談センターにおける相談活動の特徴としては、第1に、学術的基盤に基づいた専門的臨床実践の場であることが挙げられる。相談員は専任教員の相談員を含め、いずれも臨床心理士、公認心理師の資格を持ち、しっかりとした学術的な基盤に基づいて、相談活動を実践している。第2に、幅広い相談に対応可能なスタッフがそろっていることが挙げられる。当心理相談センターの相談員は、その専門とする心理療法や専門分野がさまざまであり、①小さな子ども(遊戯療法)から高齢者まで、②個人、家族、集団のいずれに対しても、③カウンセリング、心理療法から親ガイダンス、専門家のコンサルテーションまでさまざまな心理的支援を、④認知行動療法、精神分析的な心理療法、ゲシュタルト療法などさまざまなアプローチで行うことが可能である。第3に、研究での事例使用を条件とした利用しやすい料金でのサービス提供をしているところに特徴がある。前述のように、当心理相談センターは大学の研究機関でもあるために、クライアントには研究への協力をお願いする代わりに、比較的安価な料金でカウンセリングを提供している。以上のような点が、当心理相談センターの特徴といえる。

本稿では、このような当心理相談センターの特徴をさらに細かく検討することによって、大学における心

理相談センターの役割、さらには当心理相談センター設立の意義を考えてみたい。

## 2 大学における心理相談センターの役割

大西(2007)は、地域における大学附属心理相談センターの役割として、①地域社会の人々に対する心理臨床的支援(心理相談活動)、②将来心の専門家として地域のリーダーとなりうる人材の育成(学生の教育・実習活動)、③心理的な問題にかかわる人々や他機関との連携(コンサルテーション活動)、④講演会やセミナーの開催など、地域社会の人々に対する心理的な情報の発信(研修活動)の4つを挙げている。

### (1) 地域社会の人々に対する心理臨床的支援(心理相談活動)

第1に、大学における心理相談センターは、地域社会の人々に対する心理臨床的支援(心理相談活動)を行う役割を担っている。大学における心理相談センターというと、その大学の学生の相談をしていると思われるが、図3に示すように、一般に、大学生の相談は学生相談室で行っており、心理相談センターは地域社会の人々に対する心理相談を行っている。これは、心理相談センターの相談員はその大学の教員や大学院生であるため、大学生の相談を行うことは多重関係となり、倫理的に問題があるためである。そのため、大学における心理相談センターの役割は、地域住民のメンタルヘルスに貢献すること、すなわち地域貢献であ

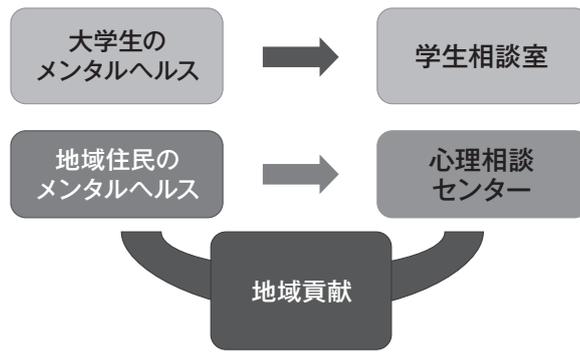


図3 大学における心理相談センターの役割

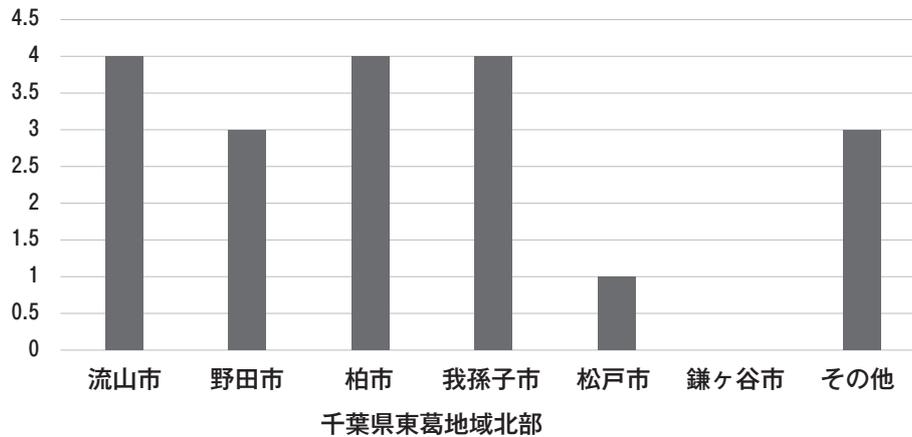


図4 江戸川大学心理相談センター相談者の居住地 (2019年)

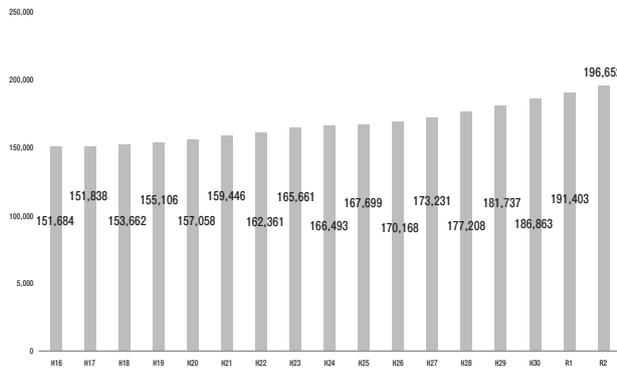


図5 流山市常住人口推移 (流山市ホームページより)

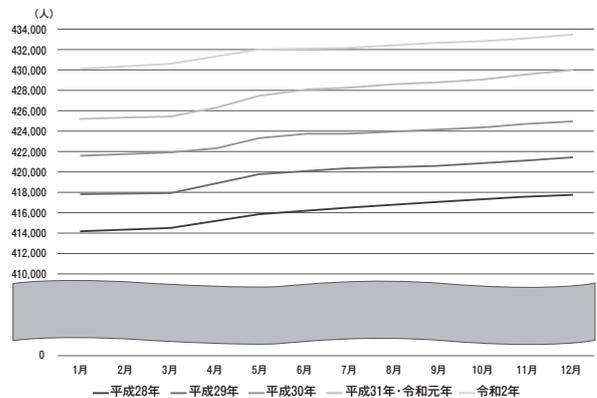


図6 柏市常住人口推移 (柏市ホームページより)

る。

当心理相談センターが所属している江戸川大学は、千葉県流山市に位置している。図4に示すように、当心理相談センターの利用者は、千葉県東葛地域北部(流山市・野田市・柏市・我孫子市・松戸市・鎌ヶ谷市)の居住者が中心となっている。そこで、この地域の特徴を考えてみたい。

まず、流山市と柏市の人口の増減を見てみると、流

山市の人口は196,652人、柏市の人口は433,436人(いずれも令和2年度統計による)で、図5および図6のとおり、ともに増加傾向にあることがわかる。

これは、この地域が都心への通勤圏内にあり、一方で生活に必要な施設はそろっていることなどから、住みやすい生活エリアと考えられていることによるものと思われる。実際に、住宅情報サイトSUMOの「住みたい街(駅)ランキング2019 関東版」では、柏は26位、

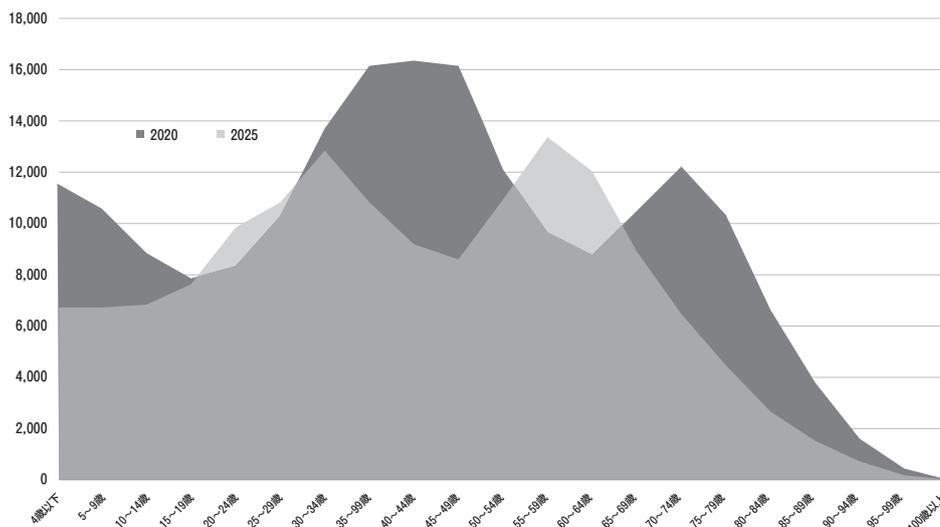


図7 流山市の年齢別人口構成  
(流山市ホームページより)

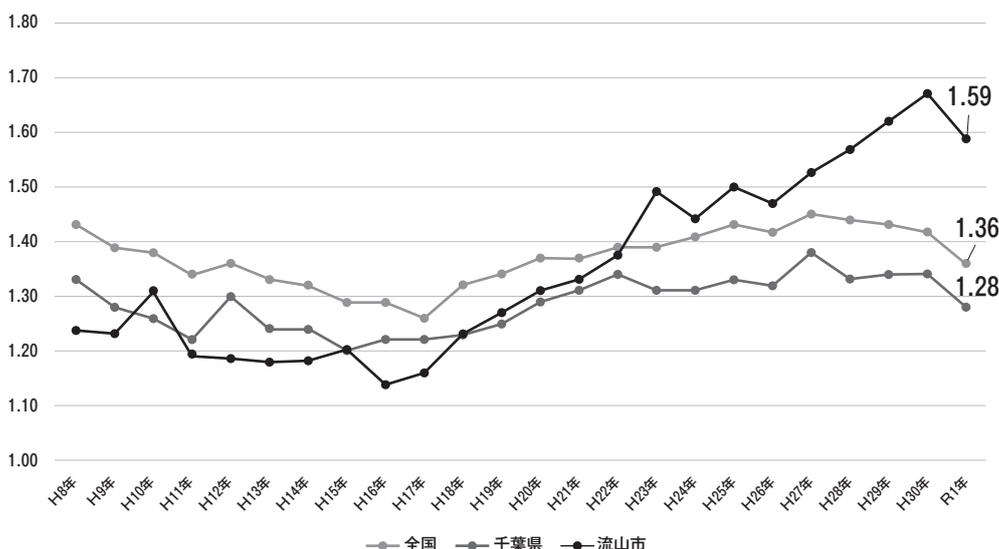


図8 流山市の合計特殊出生率の推移  
(流山市ホームページより)

流山おおたかの森は41位であり、ともにベスト50位以内に選ばれている。また、流山市の2019年の人口増減率は106.3%で、全国第14位となっている。

さらに、図7に示すように、年齢別の人口構成を見ると、30代、40代とともに10歳未満も増加しており、小さな子どもを持つ世帯が多くなっていることがわかる。このことは、図8に示されているように、出生率が増加していることを見てもうなずける。また、70代以上の高齢者を抱える家庭も増加している。

このような流山市の現状から、この地域の特徴として、第1に人口の増加が著しいこと、第2に若い夫婦と小さな子どもの世帯、高齢者が多いことが挙げられる。

このことを、心理相談の視点から考えると、子育てや家族に関する心理的な悩みが起きやすい状況であると考えられる。図9は流山市の育児相談の件数の推移、図10は流山市の家庭児童相談の件数の推移を示しているが、いずれも増加傾向にあり、支援を必要としている状況がうかがえる。

このような現状に対して、千葉県内の心理相談が可能な相談室を持つ大学の数は、決して十分とは言えない。千葉県東葛地域北部では、聖徳大学(松戸市)、川村学園女子大学(我孫子市)と江戸川大学の3校のみである。つまり、地域の特徴としては、家族、子育てにかかわる相談支援の必要性が増している状況にもかか

区 分	相談者延人数(人)		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度
保健センター	662	621	711
公民館等	592	604	684
合 計	1,254	1,225	1,395

図9 流山市の育児相談件数の推移  
(流山市ホームページより)

単位：件

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
性格・生活習慣	97	165	82
言語・知能	3	20	11
学校生活等	人間関係	12	3
	不登校	47	148
	その他	15	8
非 行	0	0	3
家族関係	虐待	1,078	2,188
	その他	188	157
環 境 福 祉	1,419	1,531	1,738
心 身 障 害	33	50	75
そ の 他	18	6	18
合 計	2,910	4,276	5,444

図10 流山市の家庭児童相談件数の推移  
(流山市ホームページより)

ならず、地域における相談機関は十分であるとは言えない。このことから、家族支援、子育て支援ができる大学の心理相談センターの必要性は高いと考えられ、そこに江戸川大学心理相談センターの役割があると考えられる。

**(2) 将来心の専門家として地域のリーダーとなりうる人材の育成(学生の教育・実習活動)**

大学における心理相談センターの役割の2つめは、将来心の専門家として地域のリーダーとなりうる人材を育成することである。心の専門家であるカウンセラーとして働くためには、心理学系の大学で決められた科目を修得した後、大学院に進学し、そこで実習などを行い、修了後、公認心理師または臨床心理士の試験に合格し、就職するというのが、代表的な経路である。千葉県在住の学生たちの中にも、地元でカウンセラーとして働きたいという希望を持つ者は少なくないと思われる。しかしながら、千葉県で臨床心理学を学べる心理学科を持つ大学は多くはない。江戸川大学(流山市)の他には、川村学園女子大学(我孫子市)、淑徳大学(千葉市)、聖徳大学(松戸市)、東京成徳大学(八千代

市)、和洋女子大学(千葉市)があるだけである。このような状況の中で、江戸川大学社会学部人間心理学科は、流山市、柏市など東葛地区に加え、茨城、埼玉などの学生が通える立地にあること、公認心理師コースを開設し、臨床心理学実践の専門家を育成していることから、地域における心の専門家の育成に貢献できる位置にあると考えられる。残念ながら、現在はまだ大学院がなく、心理相談センターを教育の場として活用することはできていないが、将来は大学院を創設することも計画されており、今後、学生の実習の場としても、心理相談センターが活用される可能性がある。

**(3) 心理的な問題にかかわる人々や他機関との連携(コンサルテーション活動)**

大学における心理相談センターの役割の3つめは、心理的な問題にかかわる人々や他機関と連携することである。大学の地域貢献において、地域の専門家の支援は重要な役割である。それは第1には、心の支援に携わる個々の専門家や機関にできることには限界があるためである。連携の例としては、たとえば、精神科クリニックで投薬治療を行いながら、大学の心理相談セ

ンターでカウンセリングを行う場合などが考えられる。

また第2に、地域の心理専門職に対して支援を行うことも、大学の心理相談センターの重要な役割である。具体的には、地域の心理専門職に対するスーパービジョンやコンサルテーションなどがそれに当たる。現在、地域で働くカウンセラーなどの心理専門職の多くは、非常勤職である。そのため、勤務している職場には他に心理専門職がおらず、スーパービジョンやコンサルテーションなどの支援を受けられないことが少なくない。しかし、自分自身も心理的な負担を負うことが多い心理専門職にとって、スーパービジョンやコンサルテーションなどの支援を受けることは不可欠である。そのため、地域の大学の心理相談センターがその役割を担う必要があると考えられる。

現在、江戸川大学心理相談センターにおいて可能な専門家支援としては、精神科クリニックとの連携、地域のカウンセラーのスーパービジョンやコンサルテーションの他に、江戸川大学子どもコミュニケーション研究所との連携活動がある。これは、子どもコミュニケーション研究所が主催し、子育て中の親たちの支援の場となっている「えどがわ・こども・サロン」を訪れた親たちの中で、継続的なカウンセリングを求めている者に対し、心理相談センターを紹介してもらうものである。

#### (4) 講演会やセミナーの開催など、地域社会の人々に対する心理的な情報の発信(研修活動)

大学における心理相談センターの役割の4つめは、講演会やセミナーの開催などの活動を通して、地域社会の人々に対して心理教育的な情報を発信することである。地域住民や地域の専門家に対して、心理教育(研修活動)を行うことも、地域に根差す大学の心理相談センターの大きな役割である。具体的には、①子育て講座、自分らしく生きるための心理学講座などの地域住民を対象とした講座の開催、②臨床心理学に関する研修会など、地域の専門家を対象とした研修機会の提供などが考えられる。今回の講演会もその1つである。

### 3. カウンセリングと家族支援

以上、大学における心理相談センターの役割を検討

しながら、江戸川大学心理相談センター設立の意義について考察してきた。最後に、今回の江戸川大学心理相談センター設立記念講演会のテーマである「カウンセリングと家族支援」と本稿との関係について説明したい。

現在、離婚の増加、児童虐待、DV、高齢者のケアの問題など、家族をめぐる様々な問題が起きている。一方で、非婚化や少子化など、家族形成時点での問題も見られるようになってきている。いったい今、家族で何が起きているのか。そして、それに対してどのような支援が可能なのか。このような課題は、家族を形成し、人生をおくる場として選ばれているこの地域にとって、避けて通れない中核的な課題である。

今回の講演会の招聘講師である平木典子先生は、日本における家族心理学、家族療法の第一人者である。私が平木先生と始めて出会ったのは、約30年前の最高裁判所家庭裁判所調査官研修所の研修の場であった。当時、家庭裁判所調査官補として就職したばかりの私に、カウンセリングと家族支援の魅力を教えていただいたのが、平木先生であった。今回の講演会で平木先生をお迎えし、カウンセリングと家族支援のあり方について学ぶ機会を地域の方々と共有することは、まさに多くの家族が生活をおくるこの地域に根ざす大学の心理相談センターの役割であると考え次第である。

## 文 献

- 1) 柏市ホームページ(2020). 毎月常住人口, <http://www.city.kashiwa.lg.jp/soshiki/020800/p019718.html>(2020年12月27日)
- 2) 流山市ホームページ(2020). 人口増加中, <http://www.city.nagareyama.chiba.jp/appeal/1003878/103882.html>(2020年12月27日)
- 3) 流山市ホームページ(2020). 流山の保健・福祉 令和元年度, <https://www.city.nagareyama.chiba.jp/information/1007116/1007428/1007430/1023916.html>(2020年12月27日)
- 4) 大西理恵子(2007). 地域で求められる心理相談機関の役割, 福山大学こころの健康相談室紀要. 1, 83-88.